

〈シンポジウム〉 香粧品原料をめぐる問題

香 料

松 倉 十 一*

On Fragrance Raw Materials

Toich MATSUKURA*

日本の香料産業の構造及び年産数量、金額、香料需要産業の規模、香料の原料資源を天然物、合成香料の最近の進歩概説、特に研究ルート、ピネン、イソプレン、アセチレン、イソプチレンよりの合成経路（企業化されている）、合成1-メントールの主要原料（6種）、よりの合成法、高価な天然製油中のKey substances（ローズ油、セスキテルペン類〈10種類〉、ジャスモン油）の研究現況について概説した。

香料物質とその構造に由来する香気に関しては多くの概説がある。いずれにしても十分な論拠に乏しいが、Menthols, Hydroxycitronellalの構造と香気、Isomers（Enantiomeric isomer of Carvone, l-, d-, cis-, trans, α' - β -化合物の physiological effect, odour effect）の香気の異なる例をあげた。

香粧品への使用量を例示、著名な調合香料の処方例を示した。

香料物質の生理活性について、香料物質の経時変化成績体（光照射による異性化、変化、autoxidation, enzymatic reaction, association）についての解説、香料物質の経皮吸収、光毒性の代表的 Bergapten に関する最近の研究報告、精油中の微生物による生産含ハロゲン化合物等についても論及した。